

I 事業の概要(地域の実情含む)

平成17年9月、西根町、松尾村、安代町の3町村が合併して誕生した八幡平市は、青森県・秋田県と接し北東北3県の中心に位置し、岩手山・八幡平・安比高原の恵みに満ちた、交通新拠点を目指して大きな一歩を踏み出した市である。地形は、北に安比川、南に赤川・松川が流れ、2つの活火山である岩手山・八幡平があり、自然豊かな地域である。しかし、雨が長く続くと安比川上流は氾濫を起こしやすく、冬は地域全体が相当の積雪が見込まれる場所でもある。

今年度、文部科学省委託事業「学校安全総合支援事業」の「いわての復興教育スクール〈内陸〉」に指定され、平舘小学校、寺田小学校、西根第一中学校と連携を図りながら復興教育に取り組んだ。特に、それぞれの学校で作成したハザードマップ等を本校文化祭にて展示発表、比較することで他校の良い点や自校で足りない点を確認し補う活動考えた。

また、本校としては初めて行った避難所開設シミュレーションを通して、避難の大切さや岩手山の噴火を想定した防災教育に取り組んだ。

(1) 3学年

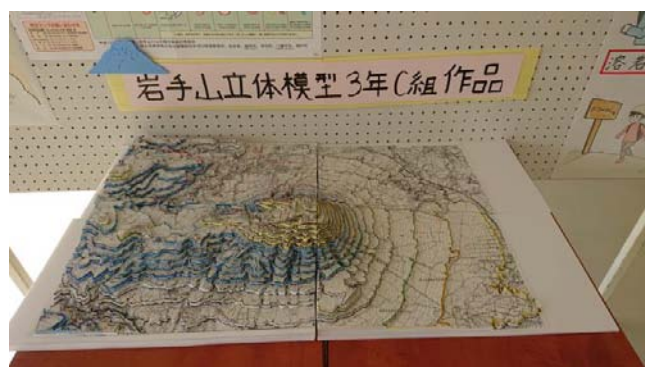
- ア 岩手山立体模型の作成
- イ 岩手山噴火で想定される災害の種類のとめ
- ウ 火山噴火で引き起こされる災害への対処のまとめ
- エ 気象庁発表の噴火レベル警戒レベル一覧表及び岩手山噴火レベル一覧表

(2) 1学年

- ア 火山災害への対策
- イ 災害の知識(火山以外の災害、火山の恩恵を含んだ内容)
- ウ 防災と火山(災害の種類)
- エ 火山災害と防災
- オ 防災対策 等



(平舘高校展示発表)



(岩手山立体模型)

II 取組の概要

1 事業計画に関する小・中・高情報共有事業

(6月24日)

県教育委員会学校調整課主任指導主事、八幡平市教育委員会担当指導主事、各校の校長が出席し、本校校長室において今年度の各校の取組を確認した。さらに各校の窓口となる教員がメール等で各校の事業を案内し、可能な場合は互いに参観する形で取り組むことを確認した。

2 ハザードマップ作成事業

文化祭展示発表(10月20日)に向けて3学年、1学年においてそれぞれ次のような取り組みを行った。また、同一地区内で進めている小・中学校の防災に関する取組の展示発表を行った。内容は、以下のとおりである。

(3) 平舘小学校

学区内の各地区ごとの防災マップ(防災に役立つ情報まとめ)



(4) 寺田小学校

学校周辺の危険箇所等をまとめた安全マップ



(5) 西根第一中学校

避難所運営実習(HUG)のまとめ



(受付の様子)



(物資配布の様子)



(けが人等への対応)

3 避難所運営(想定)事業(10月29日)

岩手山噴火による地震多発を想定した避難訓練(シェイク・アウト)後、生徒は避難者と受入側に分かれて、第一体育館に設置した避難所へ受付⇒非常食等の配布⇒各住居地区ごとに避難・待機等のシミュレーションを行った。その中で、けが人等への応急処置等の対応訓練も行った。避難完了後に八幡平市防災安全課職員から講評をいただいた。



(講評)

4 防災リーダー養成事業(9月18日、19日)

防災担当中核教員及び生徒は1学年生徒が下記の2カ所の見学・学習等を行った。

(1) 県立総合防災センター見学

センター職員による防災に対する講義、火災を想定した煙避難体験、阪神大震災における震度7を想定した地震体験、東日本大震災津波に係る防災ビデオ視聴、所内防災に係る展示物見学等を行った。



(センター職員による講義)



(地震体験)

(2) 岩手山火山防災情報ステーション・イーハトーブ火山局見学

八幡平市防災安全課職員による「防災講座」を受講し、イーハトーブ火山局内を見学。中核教員は、八幡平市防災安全課職員と避難所運営に係る運営等について協議した。



(火山局内見学学習)



(市防災安全課職員と中核教員による打合せ)

5 県教育研究発表会「いきる かかわる そなえる」 分科会にて発表(2月14日)

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

(1) アンケート結果から

全校生徒 183 名、事前アンケート(8月実施 177 名回答)、事後アンケート(11月実施 180 名回答)

ア 学校周辺や居住付近の危険箇所を知っている生徒の割合が事前 35.6%から事後 53.3%へと高まった。このことは、ハザードマップ作成事業を通して高まったものと捉える。

イ 居住付近の避難場所を知っている生徒の割合が 50.3%から 81.7%と高まった。このことは、避難所運営(想定)事業等を通して普段から防災・避難等について「そなえる」心がけが育ってきたからと考える。

ウ 避難場所でボランティア活動を希望する生徒の割合が 85.3%から 89.4%へと高まった。このことは、避難所運営(想定)事業等を通して他者と「かかわる」大切さを認識できたからと考える。

(2) 生徒の感想から(抜粋)

ア 防災リーダー養成事業

(ア) 県立総合防災センター

- ・「どの災害もとても大きな災害になることが分かりました。これからは、災害に備えて非常時の備えをしていこうと思います。」
- ・「講義ありがとうございました。ハザードマップを見て危険区域を知ることや最新気象情報の確認、非常食や水常備が必要だと改めて感じました。」
- ・「煙体験では煙のせいで視界が悪くすぐに友人とはぐれてしまうことが分かりましたし、阪神大震災と同じレベルの地震体験は立ってられない程の強さで怖いなと実感しました。」
- ・「この見学を通して災害の恐ろしさや避難の仕方を知ることができたので、災害に遭ったときは、冷静に行動したいと思いました。」

(イ) イーハトブ火山局

- ・「災害への備えは、『自助⇄共助⇄公助』が大切なんだと思いました。私は「自助」ができるように日々意識しながら生活して防災対策をしていきたいと思いました。」
- ・「避難場所や避難経路をしっかりと確認して、噴火などの情報収集をしていきたいです。前もって確認や準備をして、少しでも被害を減らしたいと思いました。」
- ・「自分たちに身近な自然災害に、洪水や地震の他に火山の噴火も含まれていることが分かりました。」
- ・「今日学んだことを家族と話し合っって早めの準備をしておきたいです。家族間だけではなく隣近所との関わりや地域でも輪を広げていきたいです。」

(ウ) 避難所運営(想定)事業

- ・「家で親とあまり避難時においてどうするかなど話さないなので、一度親と避難場所などをしっかりと話し合ってみたいなと思いました。今日、聞いたこと学んだことを生かしていけるよう頑張りたいと思います。たくさん学ぶことができたので良かったです。」
- ・「実際に災害が起きたときの避難所の雰囲気を感じる事ができて良かったです。」
- ・「物資配布係を行いました。係りをやっていて感じたことは避難してきた人たちを温かく迎え入れることが大事ということです。」

気をつけなければならないことは、丁寧かつ迅速に食料を配ることが大切だと思います。」

- ・「足首捻挫(想定)の人を車いすで搬送する体験をしました。実際にはもっとけが人が増えると思うので、様々な所に気を配らないといけないと思いました。」
- ・「避難所ってこんな感じなんだと感じた。避難所の場所が限られた中で1つ1つの行動が周りの人の迷惑にならないようにすることを気をつけたいと思った。」

(3) まとめ

- ア 大きく4つの取り組みを通して防災教育に取り組み防災意識を高めることができ、本事業の主目的は達成することができた。
- イ 文化祭において近隣の小中学校の展示発表を行い、それぞれ年齢に応じた素晴らしい取り組みを行っていることを確認できた。
- ウ 八幡平市防災安全課との連携が強くなった。避難所運営に関しては、学校と市の協力体制をさらに強めていきたい。
- エ 岩手山噴火による災害が起こり得ること。その噴火による災害に向き合うことの大切さを確認することができた。

2 課題

- (1) 近隣小中学校との防災に係る情報共有をさらに図る必要性を感じた。
- (2) 保護者等の防災に対する意識を高めるための方策。
- (3) 今回の避難所運営(想定)事業を行い、避難所のレイアウトの工夫や本校職員が市職員とどの程度役割分担をしてよりよい避難所開設ができるか改善すること。